

# 学生が神殿製作に挑戦

大館アメッコ市

秋田職能短大 観光協会の相談受け

## 来年度の完成目指す

老朽化が  
課題 「軽くコンパクトに」



試作中の神殿。3月までに仕上げる（秋田職能短大）

大館市の冬の風物詩「大館」市観光協会から相談を受け、アメッコ市の会場に設けられ、本年度は2年生3人が試作する神殿の製作に秋田職能短大が協力する。来年度の完成を目指す。力開発期大生校（中村雅英）年がかりのプロジェクトが進められている。老朽化が進んでいる上、設置に労力がかかることか、間、歩行差支障となる「おおよそ」の学生が挑戦している。



昨年10月に行われた神殿の調査（大館神明社）＝大館市観光協会提供

設置される。観光協会によると、「神殿がいつ、どういう経緯で設置されたかは分からないが、会場が賑々としたアメッコ市は、1972年から観光協会、商工会議所の3団体が主催し、大町で開催されるようになったと資料に残る。この頃に設けられたの

ではないか」と推測する。神殿は高さが約4尺、幅約3尺。当日の朝、大館神明社の境内から、クレーンでトラックに乗せて会場へ運ぶ。観光協会の黒山嘉寿博は「業者に依頼しているが、重さがあり、設置作業が大がかり。老朽化が進み、更新のタイミングでコンパクト化できないと考えていた」と話す。現状を聞き、同短大住居棟棟料の中田智大准教授が「年々生じ課題として投げかけた。『やつてみた』と手を付け、たのびに村上夏音さん、石橋拓真さん、黒山旺介さんの3人。同短大は毎年、ジャンボの飾り付け作業に参加形が見えてきた。



木材を組み、神殿の造りを検討する学生（秋田職能短大）

アメッコ市は1888（天正16）年に始まったとされ、「この日にアメを食ると風邪をひかない」といふ言い伝えが残る。今年も3月、9日に開催される。

し、アメッコ市は学生主体として親しみのあるイベント。卒業研究にあたる総合制作実習で取り組むことになった。現在の神殿より一回り小さく、軽量化し、運ぶやすい仕様」に観光協会を要請し、本年度は材料などを検討し、試作することにした。

本年度は材料などを検討し、試作することにした。本年度は材料などを検討し、試作することにした。

15日には黒山嘉寿博が校内の製作現場を訪ね、「現在の3割程度の大きさで、屋根部分などを3分割できる設計」と説明を受けた。残る業は屋根や扉の取り付けとなっている。

村上さんは「観光協会の期待に答える神殿に『石橋さん』も地域の人が喜んでもらえるもの完成させたい」と目標を掲げる。中田准教授は「地域で使われるの作りに携わることができ、学生の将来に生かされると思う。希望に応えたいと期待している」と話す。

来年度も学生を募り、本年度仕上げた神殿のゆがみを検討し、改善して完成させたい。黒山さんは「学生の申し出をうれしく思っている。立派にできたり、ぜひ完成させてほしい」と期待している。